

藤の学び改革を伝える～第1回オープンスクール

毎年、7月から10月まで、本校では中学生向けの募集関連行事を実施します。今回は、前回に続いて藤の学び改革を伝える機会としてのオープンスクールについて紹介します。前回紹介した「授業体験会」が藤の新しい授業を伝える機会としているのに対して、「オープンスクール」は、生徒全体で本校の様子や雰囲気伝えるというものです。

8月27日（土）に第1回目のオープンスクールを実施し、200名近くの中学生と70名程の保護者の方々が参加してくださいました。

本校生徒がオープンスクール運営の主役

オープンスクールでは、すべての場面で本校生徒が重要な役割を果たします。今回も生徒会生徒や有志として名乗り出た生徒たち100名以上が企画・運営に協力しました。生徒たちの事前準備は数週間前から始まりますが、ここまで学び改革の柱のひとつとして実施してきた「PDCA」を駆使して、準備を進めます。

「PDCA」は、学習活動に活用するだけではなく、学校活動のすべてに応用しようとして行ってきましたので、このような企画、運営の際、大いに役立ちます。企画力、運営能力だけではなく、人前で話すコミュニケーション力、プレゼン力も発揮されます。その力を使って、生徒が本校の良さを来校者に伝えてくれているのです。本当にありがたいことです。

教員が前面に出るのは、校長の挨拶とオープンスクールのまとめプレゼン、一部の企画の運営だけです。あとはすべて裏方です。



プランナーとともに体験内容の計画を立てる

学び改革が始まって以来のオープンスクールでの本校生徒の役割は、単に中学生に本校の様子や活動を紹介する役だけではありません。オープンスクールの始まりは、一日のプランを立てるところから始まります。テーブル毎に配置されたプランナー（本校生徒）が参加者のプランニングの手伝いをします。プランニングにはいくつかのルールがありますので、iPadを使ってプランナーが説明し、準備に入ります。必要に応じて、プランナーがアドバイスをしながら進みます。女子同士の会話はすぐに打ち解けて和やかな雰囲気が作られます。違う中学校から来た生徒同士も緊張が解けてゆきます。



本校の特徴を企画内容として発信

参加者が体験できる内容は、大きく分けて①授業体験、②コース体験、③部活体験です。授業体験では、今回は国語、英語、そしてDEタイムを設定、コース体験は特進、進学、ULのそれぞれの生徒がコースの特徴を紹介。さらに部活動は、箏曲部、合唱部、バスケットボール部が体験や紹介を企画しました。また、制服の試着コーナーやこの日のための手帳（PDS手帳）のデコレーションコーナーも設け、通常の学校活動とともに、学び改革にも触れてもらう情報を発信しました。



生徒の力に感謝

全体の体験の後は、軽食を囲んでの「Fuji カフェ」。一日の振り返りや会話に花を咲かせていました。多くの中学生は、本校生徒の優しさを感じ取り、会全体を好印象として受け止めてくださったようです。本校生徒の優しさは、普段から培われてきたものだと思いますし、現在の在校生は、すべて中学校の時に学び改革の説明を聞いて入学してきた生徒ですので、学び改革を受け止めそれを伝える役も果たしてくれているということです。

PTAは大事な募集活動協力者です

学び改革を始めて以降の募集企画では、本校PTAの方々にも一役担ってもらっています。保護者には、参加者生徒とともに体験できる時間を設けるとともに、体育館内に「親カフェ」コーナーを設けて、保護者同士の情報交換をできるようにしました。入学前の心配を解いてゆくには保護者の方の力が一番です。来校者への接待も手慣れたもので安心してお任せできます。学校選択の経緯・ポイント、学校の雰囲気・様子、経済的な情報などなど、率直な会話がされているようです。保護者の方も強力な募集活動協力者です。



このように、生徒、保護者の協力を得て、募集活動を実施しています。実は、今回も他校からオープンスクールの視察がありました。本校のこの企画の特徴を、①生徒が企画運営する力をもっていること、②保護者の協力で参加した保護者を飽きさせていないなどの特徴を感想として述べていました。もちろん教師が裏方で支えています、学校活動全体で、生徒の主體的な力を活かす活動を行ってきた結果だとも言えます。

21世紀型教育で必要とされる、課題解決能力、主体性、思考力、表現力、判断力などは、授業での活動だけでなく、オープンスクールのような学校活動の場でも育てられるとともに、活かされるものだと確信しています。